

高校生のための経営学実践講座

学生チューターが得たものとは？



▲ 工夫を凝らしたプレゼンテーション

しかし、各グループが初対面の高校生同士で構成されておき、実際にアイデアを出してもらうのには苦労しました。質問をしても考え込んでなかなか意見を出してくれない状況で、はじめのうちは、



▲ あいさつする
瓶子長幸学部長



▲ 協力しあった成果…表彰式で

ふだんゼミナールで自分と年の近い人たちの議論を促すことには慣れていたつもりですが、今回は年齢が離れた高校生たちのアイデアを集約しなければなりません。大学生とは、考え方も知識量も違う高校生と、うまく話ができて

経営学部

経営学部の公開講座「高校生のための経営学実践講座」は、共同作業の楽しさや難しさを経験して、働くことの意味や経営学部で学ぶことの意義を理解してもらおうと、日本マクドナルド(株)の協力で開催している。こんな商品があったら、こんなお店があったら」という高校生のアイデアをまとめる手助けをしているのが、学生チューターたち。7月19日に神田キャンパスで行われた第4回講座のチューター2人から体験記が届いた。

豊かな想像力をもつ高校生
アイデアを一つの形に導く

柴崎奈緒美

4年次

チューター役で参加したことは、来年4月から社会人としてスタートをきる私にとって、とても貴重な経験となりました。



この経験を糧に、周囲と自分が相互に成長できるような配慮や行動のとれる社会人になっていきたいと思えました。参加してくれた高校生や、協力してくださった日本マクドナルドの社員の方々に感謝しています。

できた私自身やほかのチューターにも、いろいろな気づきがありました。そして何よりうれしかったのは「将来、専修大学の経営学部に入学会したい」と、高校生から別れ際にかけられた一言でした。あの講義で教わった「人は自分なにか高橋生たちのアイデアを一つの形へと導くこと、しかもけれど、他人のために頑張る時、その人の心はなかなか折れないものだ」というフレーズが、ふと脳裏をよぎりました。

サポートする立場で学んだ
コミュニケーション能力

清水 隆太

3年次

コンテンツは、ふだんあまり接点のない高校生とかかわるといって非常に楽しませてくれました。そして、高校生から多くのアイデアを引き出そうという思いをもっ



大学では自分が考える立場ですが、高校生をアシリテーションすることで、サポートする立場を経験し、コミュニケーション能力やディスキルアップが向上できたこと実感しています。今回培った能力を就職活動でも行われる、グループディスカッションなどの際に生かしていきたいと思っています。

積極的な意見交換ができませんでした。このような状況の中、私たちチューターや、日本マクドナルドの社員の方々のアドバイスなどで、次第に

雰囲気かわり、終盤では高校生がお互いに話し合うようになって、次々と良いアイデアが生まれました。そして最後のプレゼンテーションでは、各グループとも、メンバー同士で互いにサポートし合い、素晴らしい発表をしていました。

ネットワーク情報学部

ネットワーク情報学部コンテンツデザインコース2年次生

登戸小学校と理科教材づくりで交流



ネットワーク情報学部2年次のコンテンツデザインコースに学ぶ学生たちが、授業の一環として、川崎市立登戸小学校6年生の理科教材作りに3カ月間かけて取り組んできた(5月号既報)。7月13日に、小学生たちに成果を披露した学生の感想を紹介しよう。

リアルな星空にこだわる
作る技術より「相手を知る」

安嶋 大樹

2年次

私たちのグループのタイトルは「星の生き様」。「星の色によって、星には年があるんだよ」と小学生に学んでもらおうと考えて名付けた。コンテンツは「身近な星座を再現して、実際に見ても思い出せるようにする」。その場で忘れてしまう教材では意味がないと考へ、ふと空を見上げて



今回学んだことは「相手を知る」大切さ。どうすれば楽しく使ってもらえるか、どうすれば多く学んでもらえるか。そのためには、小学生のことを理解しなければならなかった。実際に小学校を訪ねてみると、苦戦する場面もあり、良い作品のためには「作る技術」よりも、「使う人」のことを考える技術の方が重要だとわかった。これからは、それを踏まえて良い作品を作りたい。

などの感想を聞いて、ひと安心。パソコンを利用した教材では、星座の中に色のついた星を正しく埋め込んでいくというゲームを用意。マウスの取り合いになる場面もあり、楽しく学んでもらえたようだ。

今回学んだことは「相手を知る」大切さ。どうすれば楽しく使ってもらえるか、どうすれば多く学んでもらえるか。そのためには、小学生のことを理解しなければならなかった。実際に小学校を訪ねてみると、苦戦する場面もあり、良い作品のためには「作る技術」よりも、「使う人」のことを考える技術の方が重要だとわかった。これからは、それを踏まえて良い作品を作りたい。

いろいろな観点から見る
グループワークから学んだ

湯浅 朋美

2年次

4月13日。この日が初めてのコンテンツデザイン基礎演習だった。グループテーマは「星」の中から「惑星」に絞り、「金星の満ち欠け」を小学生たちに学んでもらうと、

「金星」に焦点をあてて、グループワークを進めた。まなげたかった。模型は黒い暗室と黒い土台、電球、ワークシート、シールを組み合わせた

7月13日。ちょうど3カ月後に、登戸小学校に持っていった制作物のタイトルは「二番星きらり」。「二番星」をタイトルにいれることで、「二番星」に焦点をあてて、グループワークを進めた。まなげたかった。模型は黒い暗室と黒い土台、電球、ワークシート、シールを組み合わせた



今回、ユーザーから直接、反応がもらえるという貴重な経験ができた。また、複数のメンバーで一つの成果物を作ることは難しかったが、いろいろな観点から物事を見る大切さもわかった。この経験を生かし、今後のグループワークにつなげていきたい。

問にも対応できるように備えた。そして苦労したのが模型の材料。インターネットで探したり、全員で新宿まで調達に出かけたあたり、かなりの時間を費やした。

当日、うまく説明できなかったが、小学生は意欲的で、中にはひとりでブースに来てくれた児童もいた。フラッシュアニメーションを見てもらってから、模型を見てもらって、ワークシートにシールを張っていくという流れだったのだが、予想以上に反応がよく、「金星は満ち欠けするんだね」と言ってもらったことが、一生懸命取り組んだ甲斐があったと思った。